

第4回 宮崎県河川整備学識者懇談会

= 整備における環境への配慮事項 =

1. 整備における環境への配慮事項

開催日 : 平成26年11月11日 13:30~16:00

開催場所 : 日向市大王谷コミュニティセンター

1. 整備における環境への配慮事項

1)熊野江川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

1)熊野江川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

1)熊野江川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

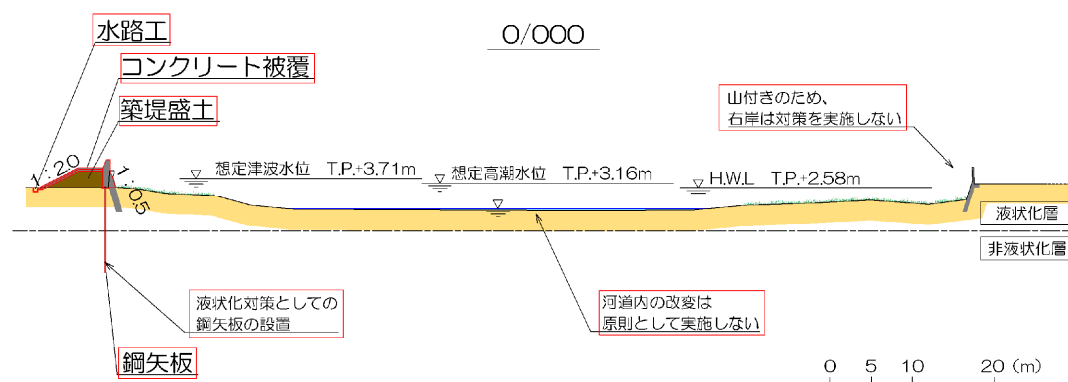
1)熊野江川

■保全のための配慮事項

- 河川規模に対して、汽水域は広い河道断面を有し、複雑な微地形が形成され底質環境も多様である。塩沼湿地として特に右岸は、陸域から連続するエコトーンが形成されており、こうした環境が残されていることが狭い水域にも係らず種の多様性に繋がっているものと考えられる。
- 保全にあたっては、特に右岸の陸域と水域の連続性(土砂・生物移動等)に留意する。
- 比較的狭い水域であるため、河道内の改変は必要最小限にとどめる。
- ハマボウやコナミキ等の重要な植物種の保全に留意する。
- 工事に際しては、動物の繁殖・産卵行動への影響緩和に配慮する。



典型的な環境0k300付近



生物の利用

<植物>

・湿地は、ヨシ群落やシオクグ群落、アイアシ群落等で構成され、湿地の周辺には、ハマボウやコナミキ等の重要種が生育する。

<魚類>

・汽水域を好むボラ、スズキなどの遊泳魚や、マハゼ、クボハゼなどの底生魚が生息する。

<底生動物>

・シオマネキ、アシハラガニは、ヨシ原に巣穴を掘り生活する。
・干潟の砂泥中にはハザクラガイ、ソトオリガイなどの二枚貝や、ゴカイ類が生息する。

<鳥類>

・サギ類やシギ・チドリ類は干潟を餌場として利用する。
・ツバメは開けた水面を飛行し、昆虫を捕食する。

■対応方針

- 防護重要度の低い右岸側(山付き)の対策は実施しないことで、水域から陸域に繋がる現状のエコトーンを保全できる。
- 左岸側の対策(護岸工・鋼矢板)は、現況護岸位置に特殊堤を配置することで、現状川幅を狭めない。
- 護岸工が水際に接する区間では工事期間中の水質や魚類・底生動物等の生息環境に直接的影響が生じる。そのため、工事変更範囲の最小化や仮締切りによる影響領域の分離、陸上からの施工等、水域への影響を最小限に止める。
- ハマボウ、コナミキ等の重要種のほとんどは、対策を実施しない右岸側の湿地周辺に分布しているため、整備に伴う直接的影響は生じない。
- 0k000左岸の河岸付近に生育するコナミキ群落の保全に対しては、工事の影響が及ばないよう施工方法等を配慮するが、回避できない場合には移植等の保全措置を検討する。
- 春～夏季にかけての、魚類・底生動物等の産卵期や鳥類の繁殖期にも配慮し、施工時期や施工方法を検討する。

1. 整備における環境への配慮事項

2) 沖田川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

2) 沖田川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

2) 沖田川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

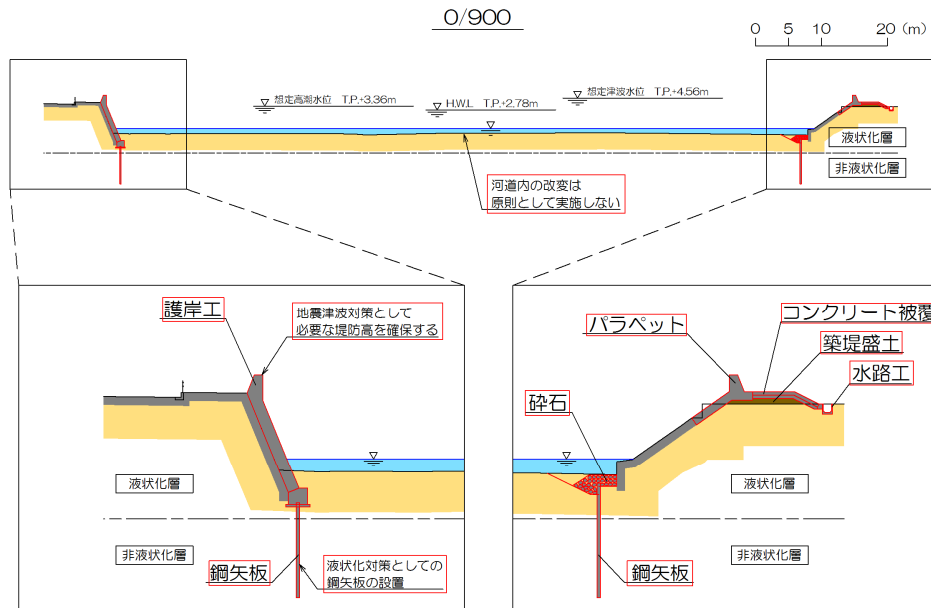
2) 沖田川

■ 保全のための配慮事項

- ・ 平野部を蛇行して流下する河川であり、穏やかな流れと干潟・湿地等、多様な生物の生息場として良好な河川環境が形成されている。
- ・ 河岸の横断方向の連続性に留意し、微地形の保全に配慮する。
- ・ ハマボウ群落やコギシギシ、タガラシ、ハマナツメ等の重要な植物種の保全に留意する。
- ・ 工事に際しては、動物の繁殖・産卵行動への影響緩和に配慮する。



典型的な環境1k700付近



生物の利用

<植物>

- ・ 湿地は、ヨシ群落やシオクグ群落等で構成され、湿地の周辺には、ハマボウやコギシギシ、ハマサジ等の重要種が生育している。
- ・ 特に、1k400～1k900の左岸側には連続してハマボウ群落が形成されている。

<魚類>

- ・ 汽水域を好むボラ、スズキなどの遊泳魚や、マハゼ、ヒメハゼなどの底生魚が生息する。

<底生動物>

- ・ シオマネキ、アシハラガニは、ヨシ原に巣穴を掘り生活する。
- ・ 干潟の砂泥中にはハザクラガイ、ハマグリなどの二枚貝や、ゴカイ類が生息する。

<鳥類>

- ・ サギ類やシギ・チドリ類は干潟を餌場として利用する。
- ・ ツバメは開けた水面を飛翔し、昆虫を捕食する。
- ・ ミサゴが水面を狩場として利用する。

■ 対応方針

- ・ 整備は堤防嵩上げや既設護岸の改良と護岸基礎部の鋼矢板工及び、既設水門の改築(耐震化対策)を計画する。整備に伴う改変は河岸部と水門近傍に限られ河床面全体の改変は行なわないため、干潟・湿地等典型的環境はほぼ維持される。
- ・ 鋼矢板工及び既設水門改築は水域の改変となり、工事期間中の水質や魚類・底生動物等への直接的影響が生じる。そのため、工事改変範囲の最小化や仮締切りによる影響領域の分離、陸上からの施工等を検討し水域への影響を最小限に止める。また、鋼矢板打設後は、自然素材や現地河床材で覆土し現状回復を促進する。
- ・ ハマボウ群落やハマナツメ、コギシギシ、タガラシ等の重要種が、河口部兩岸の水際に集中して分布している。これら重要種に対しては工事の影響が及ばないよう施工方法等に配慮するが、影響を回避できない場合には移植等の保全措置を検討する。
- ・ 春～夏季にかけての、魚類・底生動物等の産卵期や鳥類の繁殖期にも配慮し、施工時期や施工方法を検討する。

1. 整備における環境への配慮事項

3) 鳴子川

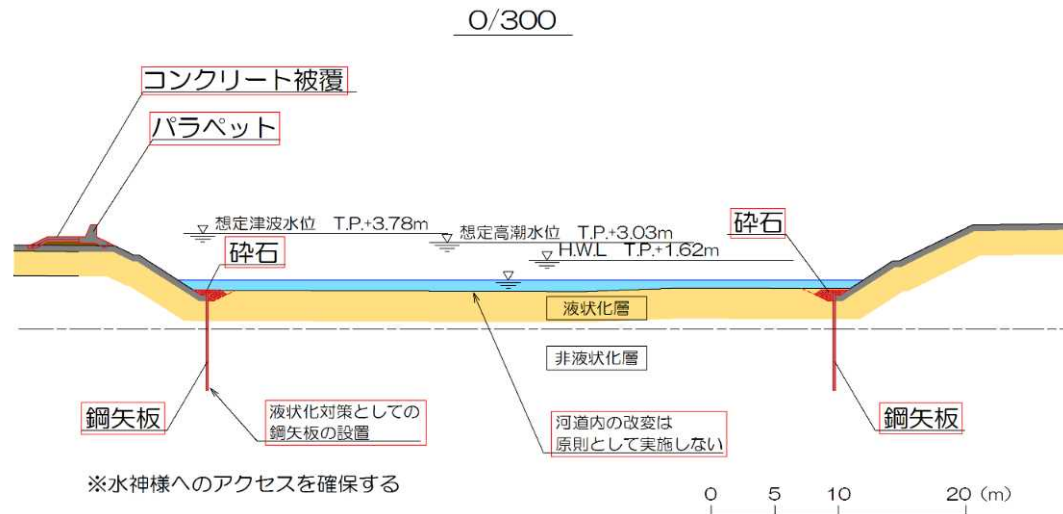
このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

3) 鳴子川

■ 保全のための配慮事項

- ・ 現状において河岸は護岸で固定化されているが、河床の干潟や一部、中洲が存在し多様性に寄与していると考えられる。
- ・ 保全にあたっては、これらの地形の保全に留意する。
- ・ タイワンスゲやコアマモ等の重要な植物種の保全に留意する。
- ・ 工事に際しては、動物の繁殖・産卵行動への影響緩和に配慮する。



典型的な環境0k300付近

生物の利用

- <植物>
 - ・ 水域と陸域の標高差が大きい。陸域ではチガヤ・ススキ群落を主とする草地、センダン群落等の植林地が優先する。草地には重要種のタイワンスゲが確認されている。
- <魚類>
 - ・ 汽水域を好むボラ、スズキなどの遊泳魚や、マハゼ、クボハゼなどの底生魚が生息する。
- <底生動物>
 - ・ ヒメヤマトオサガニ、ヨコヤアナジャコは干潟の底泥に巣穴を掘り生活する。
 - ・ 干潟の砂泥中にはハザクラガイ、ソトオリガイなどの二枚貝や、ゴカイ類が生息する。
- <鳥類>
 - ・ サギ類は干潟を餌場として利用する。
 - ・ ツバメは開けた水面を飛翔し、昆虫を捕食する。

■ 対応方針

- ・ 整備は堤防嵩上げと両岸の既設護岸を利用した護岸基礎部の鋼矢板工を計画する。河床幅は現況幅を確保し、河床面の直接的改変は行なわないため、干潟等の典型的環境はほぼ維持される。
- ・ 堤防嵩上げは現況護岸を利用しパラペットによる嵩上げを行うため、河川環境への影響は小さい。
- ・ 鋼矢板工は、河岸水際部の改変となり、工事期間中の水質や魚類・底生動物等への直接的影響が生じる。そのため、工事改変範囲の最小化や仮締切りによる影響領域の分離、陸上からの施工等を検討し水域への影響を最小限に止める。また、鋼矢板打節後は、自然素材や現地河床材で覆土し現状回復を促進する。
- ・ 重要種であるタイワンスゲが0k600右岸付近で、コアマモが0k200右岸側の水域で確認されている。これらの種の保全のため工事の影響が及ばないよう施工方法等に配慮するが、影響が回避できない場合には移植等の保全措置を検討する。
- ・ 春～夏季にかけての、魚類・底生動物等の産卵期や鳥類の繁殖期にも配慮し、施工時期や施工方法を検討する。

1. 整備における環境への配慮事項

4)五十鈴川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

4)五十鈴川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

4)五十鈴川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

4)五十鈴川

■保全のための配慮事項

- 開放水面や干潟が優先するなかで、河口部の塩沼植物群落の存在は重要である。これらの多様な環境が存続できよう留意する。
- 水面域と背後の堤内地境界に護岸が整備されその標高差も大きい。保全にあたっては、できるだけ河川横断方向の連続性確保に留意する。
- 工事に際しては、動物の繁殖・産卵行動への影響緩和に配慮する。

■対応方針

- 整備内容を検討した上で、自然環境への影響緩和対策について別途検討する。(H27年度予定)



典型的な環境0k300付近

生物の利用

<植物>

・河床面は平坦であり、開放水面と干潟が優先する。水際の一部にヨシ群落や塩沼植物群落であるナガミノオニシバ群落が立地している。なお、重要な植物は確認されていない。

<魚類>

・汽水域を好むボラ、スズキなどの遊泳魚や、マハゼ、クボハゼなどの底生魚が生息する。

<底生動物>

・ハマガニ、アシハラガニは、ヨシ原に巣穴を掘り生活する。

・干潟の砂泥中にはハザクラガイ、ソトオリガイなどの二枚貝やゴカイ類が生息する。

<鳥類>

・サギ類、シギ・チドリ類は干潟を餌場として利用する。

・ツバメは開けた水面を飛翔し、昆虫を捕食する。

・ミサゴは水面を狩場として利用する。

空白

1. 整備における環境への配慮事項

5)塩見川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

5)塩見川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

5)塩見川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

5)塩見川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

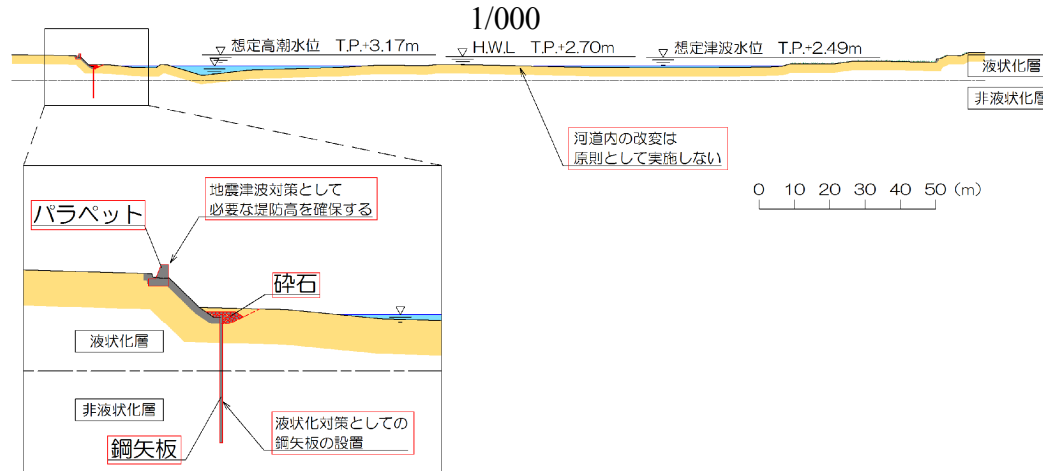
5) 塩見川

■ 保全のための配慮事項

- 平野部を広い河道幅にて流下する河川であり、干潟・湿地や河口部の砂丘等多様な環境が形成されている。
- 保全にあたっては、河道内の多様性を維持すると共に、水域から陸域への河岸の連続性に留意し、微地形を保全やできるだけ水域を護岸で規定しないように配慮する。
- 水域内のコアマモ、湿地周辺に生育するカワヂシャ、コギシギシ、シバナ、ハマボウ、草地に生育するヒメナミキやタガラシ等の重要な植物種の保全に留意する。
- 工事に際しては、動物の繁殖・産卵行動への影響緩和に配慮する。



典型的な環境1k100付近



■ 対応方針

- 整備は堤防嵩上げや既設護岸を利用した護岸基礎部の鋼矢板工を計画する。河床幅は現況幅を確保し河床面の直接的改変は行なわないため、現状の河床面の干潟・湿地・砂丘等の典型的環境はほぼ維持される。
- 堤防嵩上げは現況護岸を利用しパラペットにより嵩上げするため、河川環境への影響は小さい。
- 鋼矢板工は河岸水際部の改変となり、工事期間中は水質や魚類・底生動物等への直接的影響が生じる。そのため、工事改変範囲の最小化や仮締切りによる影響領域の分離、陸上からの施工等を検討し水域への影響を最小限に止める。また、鋼矢板打節後は、自然素材や現地河床材で覆土し現状回復を促進する。
- カワヂシャ、コギシギシ、シバナ、ハマボウ等の重要種は0k700～2k000区間に広がる右岸側湿地周辺に集中しているが、整備による直接的な影響は生じない。また、1k700付近左岸の護岸近傍に確認されたコアマモは、その周辺水域に分布するコアマモ群落等から種子が分散して定着したものと考えられる。周辺水域にはまとまった群落が存在しており、整備後においても周辺への分散・定着が期待できることから、特別な配慮は行なわないこととした。
- 春～夏季にかけての、魚類・底生動物等の産卵期や鳥類の繁殖期にも配慮し、施工時期や施工方法を検討する。

生物の利用

<植物>

・湿地は、ヨシ群落为主体で、その間隙にシバナ群落やナガミノオニシバナ群落、シオクグ群落等が混在している。

<魚類>

・汽水域を好むスズキなどの遊泳魚や、マハゼ、ウロハゼなどの底生魚が生息する。

<底生動物>

・シオマネキ、アシハラガニは、ヨシ原に巣穴を掘り生活する。

・干潟の砂泥中にはハザクラガイ、オチバガイなどの二枚貝や、ゴカイ類が生息する。

<鳥類>

・サギ類やシギ・チドリ類は干潟を餌場として利用する。

・ツバメは開けた水面を飛行し、昆虫を捕食する。

空白

1. 整備における環境への配慮事項

6)赤岩川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

6)赤岩川

このページは、希少種等の位置情報が記載してあるので、削除しています。

1. 整備における環境への配慮事項

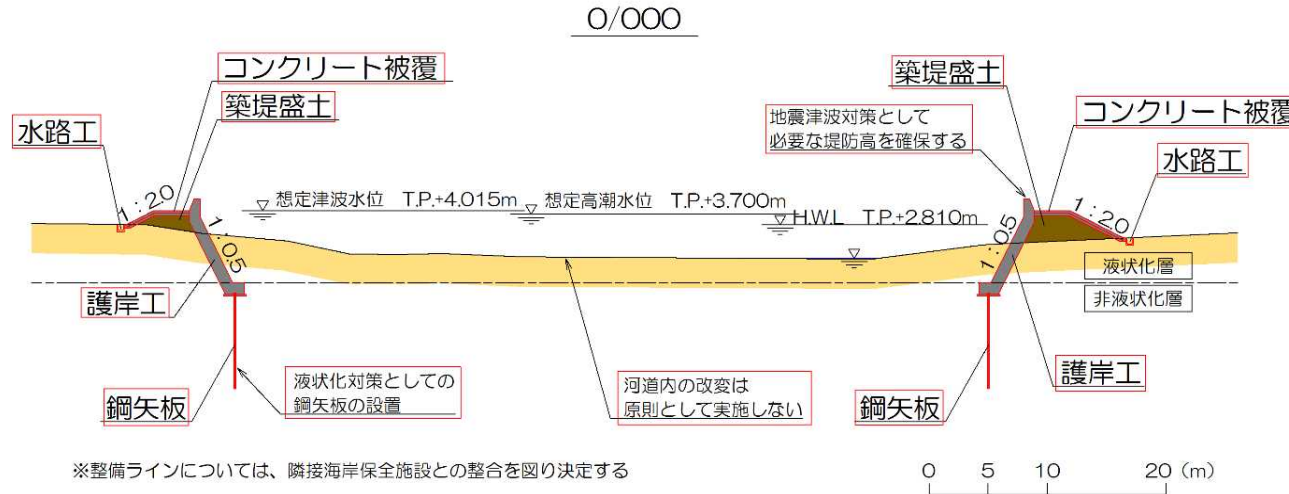
6) 赤岩川

■ 保全のための配慮事項

- ・ 河口部には開放水面や干潟・湿地、砂丘等の環境が形成され、それぞれの場が生物等の生息・生育・繁殖等に利用されている。
- ・ 保全にあたっては、鳥類の飛来の障害とならないよう開放水面を確保することや、砂丘がコアジサシの営巣地として利用されていること等を踏まえ、河口部の現状維持に留意する。
- ・ 湿地に混在するカワヂシャや砂丘に生育するゲンバイヒルガオ等の重要な植物種の保全を図る。
- ・ 工事に際しては、動物の繁殖・産卵行動への影響緩和に配慮する。



典型的な環境0k200付近



※整備ラインについては、隣接海岸保全施設との整合を図り決定する

生物の利用

<植物>

- ・ 湿地はヨシ群落主体で形成されている。
- ・ 砂丘植物群落はコウボウムギ群落とオニシバ群落が主体で、その外オカヒジキ群落、ハマゴウ群落、ケカモノハシ群落で形成されている。

<魚類>

- ・ 汽水域を好むボラなどの遊泳魚や、マハゼ、トビハゼなどの底生魚が生息する。

<底生動物>

- ・ 干潟の砂泥中にはハザクラガイ、イソシジミなどの二枚貝や、ゴカイ類が生息する。

<鳥類>

- ・ サギ類は干潟を餌場として利用する。
- ・ ツバメは開けた水面を飛行し、昆虫を捕食する。

■ 対応方針

- ・ 整備は兩岸の築堤と液状化対策(鋼矢板工)を計画する。
- ・ 築堤は特殊堤構造とすることで築堤幅を狭め、改変範囲の縮小化を図る。
- ・ 鋼矢板工は河岸水際部の改変となり、工事期間中の水質や魚類、底性動物等への直接的影響が生じる。そのため、工事改変範囲の最小化や仮締切りによる影響領域の分離、仮棧橋工法の適用等を検討し水域への影響を最小限に止める。また、鋼矢板打設後は自然素材や現地河床材で覆土し現状回復を促進する。
- ・ 左岸堤防沿いに分布するゲンバイヒルガオやカワヂシャ等の保全に対しては、工事の影響が及ばないように施工方法等に配慮するが、影響を回避できない場合には移植等の保全措置を検討する。
- ・ 春～夏季にかけての、魚類・底生動物等の産卵期や鳥類の繁殖期にも配慮し、施工時期や施工方法を検討する。特に、コアジサシの営巣地が河口部砂丘で確認されているため、繁殖期での施工を中断や必要に応じて施工中のモニタリングを行いながら影響緩和を図る。